

19歳の娘の生理が重く心配です。初潮は約1カ月続き、高校生ごろから腹痛、頭痛、吐き気、倦怠感で寝込むように。月経間に軽い月経があり出血量も多いです。エコー検査では異常はなく、ピルを勧められましたが、リスクはないでしょうか。(53歳、女性)

月経困難症



牧原夏子医師

月経痛解消にはピルが効果的

月経の周期や症状はもともと個人差があります。28日ごとと思われがちですが、全ての女性と同じではありませんし、出血

分泌のバランスの悪さが要因として考えられます。今回の相談者の娘さんは10代ですから、症状が重いのは珍しいことではありません。初潮から2、3年経過してから安定してくるのが一般的ですが、長期化したり、出血量が多かったりするケースもあります。月経の

内診に抵抗がある方でも心身の負担は軽いです。今回の方は検査後にピルの服用を勧められています。かつては経口(飲み薬)の避妊薬の印象が強く、思春期のお子さんがいる中高年の親御さんには抵抗があるかもしれません。一方で、排卵を抑制する効果もあり、現

来の妊娠への影響も心配はないでしょう。つらい月経痛の解消には効果的です。気になる症状があれば放置せず、医師に相談してみてください。

(兵庫県医師会、牧原夏子II
神戸市北区、済生会兵庫東病院
産婦人科副部長)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

量も差があります。

若い人ほど不安定で、中高生の約7割が月経痛(生理痛)に悩んでいるとのデータがあります。その半数以上が中等症以上のレベルです。身体の未発達に伴う、月経を促すエストロゲン、プロゲステロンなどのホルモン

間に出血があるのは、しっかりと排卵できていないか、一度の月経で子宮内膜を体外へ出し切れしていない可能性があります。まれに若い人でも子宮内膜症や子宮腺筋症といった病気が見つかることがあります。エコー検査で診断できることが多いで

在は月経痛軽減のために低用量、あるいは超低用量ピルが開発されています。副作用は少なく、保険適用ですから安心です。子宮がんや大腸がんなどのリスクが減るとのデータもあります。服用後に月経が安定してきますから、将